

ユーラシアを歩く会 行動報告書

The Trans-Eurasia Walking Journey Program

1. 計画コース概要

提出日:

地域分類	日本西部	区間番号	6-①
実施期間	2010年10月17日～10月22日		
計画区間	出発地 出雲大社	到着地 大山寺川床	参加人数 6名

2. メンバー表

No	役割・分担	氏名
1	リーダー	友松 知宏
2		早川 東城
3		森 正昭
4	(友松友人)	田中 加菜
5	運搬	友松 和子

3. 現地での歩行結果

	年月日	出発～到着	区間距離 Km	天候	宿泊
1日目	10月17日	出雲大社～出雲市平田	15.0	晴れ	メイプルホテル平田
2	10月18日	平田～JR松江駅(対面歩行)	25.0	晴れ	東横イン松江
3	10月19日	松江駅～大海岬鼻	11.0	晴れ	民宿まつや/美保関
4	10月20日	大海岬鼻～米子空港駅	12.0	晴れ	ワシントンホテル米子
5	10月21日	米子空港駅～米子尾高	21.0	晴れ	シャトー尾高
6	10月22日	米子尾高～大山寺川床	18.0	くもり	友松宅
7		(合計)	102.0		

区間概念図



4. 見聞録

ルートの状況

出雲大社～松江間は国道 431 号線。松江～米子空港駅は中海/大根島を通過。(大根島は中海淡水化事業で、堤防で陸続きになり、淡水化は中止されたが、堤防が道路として使用されている) 米子空港～米子市内は米川用水路沿いの歩行者・自転車専用道路。米子～大山寺は途中まで旧道、榎原から観光道路を登った。

大山寺～川床は、観光をかねて僧兵コース(下山～阿弥陀堂～賽の河原～大山寺～中原～中国自然歩道)を迂回した。

全コース、幹線道路をはずしたので、長距離トラックなどは走っておらず、快適な歩行を楽しめた。

歩行方法

基本的には順方向に一チームで歩行したが、平田～松江間は中間の一畑電鉄フォーゲルパーク駅を合流点に、平田から早川、森 2 名が、松江から友松知宏 1 名が対面歩行をし、浮いた時間を利用して、レンタカーで安来市の足立美術館他を観光した。また、境港市で境港ライオンズクラブ、境港市長。米子市で山陰放送局、合唱団コラージュを訪問し、交流した。

友松和子が家事の合間を利用して、荷物の運搬をし、軽装で歩くことができた。

友松の友人田中加菜は、21 日午前中、米子空港から米子市街まで歩いた。

観光

山陰の観光名所をつないでコースを設定。歩行する場所々々で観光しながら歩いた。

主な観光場所は下記のとおりである。

1. 出雲大社 (10 月 17 日)
出雲大社、出雲歴史博物館、出雲ワイナリー
2. 足立美術館とその周辺 (10 月 18 日)
足立美術館 (横山大観コレクションと庭園)、安部栄四郎記念館 (民芸和紙) 神魂 (かもす) 神社
3. 松江城周辺 (10 月 19 日)
松江城お堀遊覧船、松江城、小泉八雲記念館、明々庵 (茶室)
4. 美保関 (10 月 19 日)
美保関灯台 (世界灯台百選)、美保関神社、石畳小路
5. 大根島 (10 月 20 日)
由志園 (庭園、牡丹の花)
6. 境港市 (10 月 20 日)
水木しげるロード
7. 大山山麓 (10 月 21 日)
植田正治記念館 (米子出身の写真家/福山雅治の師匠)
8. 大山寺周辺 (10 月 22 日)
大山寺、圓流院、大山古道 (僧兵コース他)

自然環境

10月22日、最終目的地の川床に直行せず、大山寺境内の僧兵コースと、川床へ下る古道を歩いた。できたら、大山のカール奥（昔の火口跡）の元谷まで足を伸ばしたかったが、時間がなく、僧兵コースを歩くにとどめた。

紅葉にはまだ早かったが、秋の気配を感じながら、ブナの原生林を歩くことができた。

食べ物・酒・その他

安い料金の宿を選んだわりに、食べ物はよかった。

なかでも、10月19日に泊まった、民宿まつや（美保関町）の料理は圧巻。

カニは地元の言葉で言う「紅ずわいがに」であったが、貝類や鮮魚料理が山のように出て、一瞬、宿泊料金を間違えたのではと心配したが、翌朝精算したら、約束どおりの7千8百円也。感動した。食べきれず、若い森正昭さんに食べてもらったが、それでも、残ってしまった。

12月に江守善昭さんが、浜田～出雲大社を歩いてこられたので、同じ宿に案内したが、予めタッパーウェアを用意して、あまったカニを頂いて帰った。

メディアの取材

地元の山陰放送TVと日本海新聞の取材を受けた。

5. 人々との交流の記録

訪問先

1. 境港ライオンズクラブ (10月20日)

クラブ例会に出席。早川さんが約 20 分のスピーチを行った。
クラブ会員の夫人部からも多勢参加があり、特に、早川スピーチにたいへん好評を頂いた。エッセイ集を贈呈。

首都大学同窓会役員末光正忠さんの紹介で、地元で活躍されている写真家山本孝之さんが来場し、写真を撮ってくださった。後日、エッセイ集を贈呈。

2. 境港市役所 (10月20日)

中村市長、根平教育長ほか 2 名の課長にお会いし、1 時間余、懇談した。
清水寿夫健康長寿課長を都立大 OB として引き合わされた。エッセイ集を贈呈。

3. 合唱団コラッジョ (10月20日)

夜、ホテルの近所にある米子市文化ホールで、(友松が所属する) 合唱団コラッジョの練習場を訪問。それぞれの持ち歌で交歓した。当方からは「きままな旅人」と「森の狩」。早川さんの "I'm happy today. I'm happy today. I'm happy to be with you today" 「あなたと一緒にしあわせです・・・」の歌がたいへん好評であった。

4. 山陰放送会長、総局長 (10月21日)

同放送局の TV 番組「テレポート山陰」の取材があり、流れのなかで、杵村会長を表敬訪問した。エッセイ集を贈呈。

10月22日の夜。友松宅で打ち上げパーティをしている席に、担当の高橋さんが、番組の収録 CD を届けてくれた。

5. 町でであった人々

21 名の人たちに、通過証明を書いてもらった。そのなかで、印象に残った方々を紹介する。

相崎伸子さん

10月18日の夕刻、松江市神魂(かもす)神社の人気のない境内で独り横笛を吹いていた。顔も定かでない鬱蒼とした杜のなかでの出会いに、祭神イザナギ・イザナミを、丘ひとつ向こうの八重垣神社に祭られているイナタ姫が、義理の両親の魂を慰めにきたのでは」と、非現実的な連想をした。(イナタ姫の夫スサノオはイザナミ・イザナギの次男)

相崎さんのご主人は、都立大学の S 42 年ころの OB で、現在島根大学勤務とのことで、双方が二度びっくりした。

別れ際に「きままな旅人」と「杜の狩」を合唱。相崎さんも楽譜をみて、一緒に歌って別れた。

吉島潤承さん(大山寺塔頭圓流院主)

10月22日。大山寺博労座から、僧兵コースを迂回し、圓流院に立ち寄った。ここは近年再建されたばかりの寺であるが、水木しげるの妖怪を天井画にしたことで、観光客が訪れるようになった。

吉島院主はきさくに我々を歓待してくれ、撮影禁止の院内で記念写真も許してくれた。たいへんな健脚の持ち主で、我々が半日かけてあがってきた道を小一時間であがってしまうとのこと。さすがに山岳仏教で鍛えておられると感じ入った

次第。姿勢もシャキツとして、風のように爽やかな印象が残った。

太田竹子さん他数名

圓流院を出てすぐに、我々と同年配とおぼしき三組の夫婦に出会う。聞けば、奥さん方三人が姉妹で、姉妹会で大山登山をした帰りに寄ったとのこと。

我々が取材されたTV番組「テレポート山陰」を観たとのことで、たちまち打ち解けているんな話をする。

お別れ際、石段を下ってゆく一行を「気ままな旅人」と「ホラヒ」の歌で見送る。

「ホラヒ」も結構、ムードがあると、妙なところを感じながら歌った。

6. 健康・安全面の記録

全コースではないが、友松和子が家事の合間の時間をつくって、荷物の運搬をした。また、宿泊場所などへのタクシーがわりをしてかなり重宝した。おかげで、故障者もなく、快適な歩行ができた。

晴天続きで、日中はほとんどシャツ1枚のスタイルで過ごした。

7. 総費用

個人	渡航費	—
	宿泊費	40,000
	食費	—
	その他	18,000
	合計	58,000

グループ		
	合計	

8. 記録写真・ビデオなど



■ 出雲大社前で記念写真
(10月18日)



■ 一畑電鉄フォーゲルパーク駅
で団体旅行者と交流
中央の男性も学生時代ワンダ
ラーだった(10月18日)



■ 夕暮れた神魂神社(松江市)で横笛を
吹く相崎伸子さんにであった
相崎さんのご主人は都立大OB(S19
年生まれ)(10月18日)



■ 民宿まつや

あまりのご馳走で、宿泊料を間違えたかと心配した（10月19日）



■ 境港ライオンズクラブ例会

早川さんのスピーチがすばらしく、夫人方に好評だった（10月20日）



■ 境港市、中村市長（中央）を表敬訪問

清水寿夫さん（左から2人目）は都立大OB（10月20日）



- 境港市、水木しげるロードでねずみ男と握手
「げげげの女房」ブームで270万人の観光客が訪れた（10月20日）



- 山陰放送TV「テレポート山陰」の一場面
この番組を見た旅行者グループと大山寺の圓流院で遭遇した
（10月21日）



- 最終日、彼方にみえる大山にむかってひたすら歩く（10月22日）



■ 6-①の目的地、大山寺川床に到着
阿弥陀川の溪谷でビールで乾杯した
(10月22日)



■ 10月23日付け日本海新聞記事
右奥が中村市長

以上